

センター月だより

〒 507 0034 多治見市豊岡町 55 まなびパークたじみ 4F TEL 0572- 23 - 3455 FAX 0572- 26 - 8813

指導日誌より

= 土岐地区 =

パローや駅コンビニの方の話では 'まったく問題ないですよ。'との事でしたが、宝島土岐店ではカーブの盗難が多い様で困っていました。小中学生ではない様です。(11/5 泉 9)

中学生 2人が公園で話していた。'暗くなったから早く帰るように声をかけた。(11/6 駄知 6)

駅前で、女子高生に座り込んでいる理由を聞いてみると単なる電車待ちとのことだった。(11/12 特 A)

日暮れが早くなり公園から帰る小学生に声をかけた。家に帰るところで明るくあいさつしてくれた。(11/12 妻木 3)

これまでの信号機のある横断歩道が新濃南小学校の工事で使えず、信号の無い所で横断の指導にあたった。1 日中スピードの速い車の往来が絶えず心配である。臨時の信号が設置できないかと望む。(11/18 曾木 5)

学校工事のため登下校の横断場所が変更になり見守っているが、子どもたちはしっかりと安全を確認し渡っている。寒さに負けずあいさつも元気してくれた。親切な車が止まってくださるが、後続車が追突する事故もあった。心配である。

(11/19 鶴里 4)

駅裏駐輪場ですわりこんでいた女子高生 2人に声かけ。早く帰るよう促した。あいさつにも声かけにも笑顔で返事してくれた。(11/20 肥田 7)

駅前の階段で、高校生風の男子がタバコを吸っていたため声かけすると、消して帰って行った。(11/27 泉 8)

日が落ちかけて暗やみがせまる中、外に出ている小中学生に早く帰宅するように声かけをしました。(11/28 下石 2)

= 多治見地区 =

南姫中校区スポーツミニフェスタの終了後、地域を巡回しました。公民館や駅で声かけ、あいさつができた。(11/2 南姫 9)

小泉駅では電車待ちの人が多かったが、あいさつするときちゃんとあいさつを返してくれた。(11/4 小泉 5)

暗くなって人通りは少なかった。公園で家の人と遊んでいる子がいた。帰宅する小学生に気を付けて帰るように声かけした。(11/8 共栄 3)

自転車のライトをつけていない人が多くいた。大人でつけていない人もいる。(11/11 精華 2)

11月 声かけ活動の結果

	多治見地区	瑞浪地区	土岐地区	合計
指導人数	0	3	1	4
声かけ人数	544	86	167	797
指導員参加者	68	34	41	143

子どもたちのあいさつがとても良い。特に高校生に「気を付けて帰るんだよ！」と声をかけると、「ありがとうございます。気を付けます。」と返ってきて、とても気持ち良かった。ただ気になるのは高校生の歩きスマホ、音楽を聞きながらの姿である。(11/20 養正)

交流センターに20名程の子どもたちがおり、帰りのあいさつをしました。ほとんどが保護者といっしょに帰りました。(11/20 根本 10)

雨が上がり児童センター、福祉センターは、遊ぶ子どもたちでにぎやかでした。中高生スペースでは、中学生が静かにゲームをし、学校帰りの元気な高校生も寄っていた。(11/26 池田 6)

お薬師におおぜいの小中学生が来ていたが、多くの小中学生が私達に気付くと、子どもたちからあいさつしてくれた。(11/28 笠原 13)

= 瑞浪地区 =

バロー裏 19号地下通路、とてもきれいになり、人目も付きやすくなり安全さを感じました。(11/4 土岐 D)

1月に入り、公園に人影はない。下校途中の高校生とあいさつを交わす。(11/7 土岐 C)

市役所付近と平成通りを自転車で帰宅する高校生3人。いずれも無灯火だったのでライトを点灯するよう指導した。(11/11 日吉 J)

バロー裏 19号地下通路の壁、せつかく清掃し落書きを消したが、また赤いスプレーでヶ所落書きされていた。(11/17 瑞浪 A)

「あいさつ運動」の中学生と一緒に登校する生徒にあいさつしました。大きな声であいさつしてくれる子は少なかった。先生たちは一生懸命です。これからも続けます。(11/19 陶 E)

19 30から花火大会のため、多くの人が道路に出て花火を眺めていた。小中高生だけで行動している子たちはいなかった。(11/22 明世 H)

雨が降っていたこともあり、静かな夜でした。いつも気になっているゲンキー裏も異常ありませんでした。(11/26 稲津 F)

『生き方が芝居に出る』

これは先月亡くなった俳優、高倉健さんの言葉です。

県主催の研修会で、岐阜カウンセリング研究所の所長、宮地幸雄さんが相談業務での援助者の心得として、「専門家人間部分」と「素としての人間部分」の衝突が大事と言われました。その時に高倉さんの見出しの言葉を引用して話されました。

芝居も、相談業務も、そして社会生活のあらゆる真剣な場面で、通じる言葉だと思います。習い覚えたテクニックや本を読んでつけた知識で繕うのではなく、それも大事だが最後は、その人自身の生き様、何を考え、何をしてきたかということなのでしょう。

センターから

東濃西部少年センターでは、相談活動（あんしんコール、あんしんメール）を行っています。毎年6月に圏域内3市の小・中・高校生全員に「クリヤホルダー」を配布し、また定期的に3市の「広報」に案内を載せたり、啓発グッズ（ティッシュ等）を配布して、この相談活動のPRを行っています。

今回新たにカレンダーカード（名刺サイズ）を作成し、高校生に配布することにしました。配布は各高校の都合の良い日時に、センター職員が下校する生徒たちに校門で1枚ずつ手渡ししています。既に11月から始めており12月には全校で終了します。（一部高校は都合により学校にお願いしています。）

配布していると、中には受け取ってくれない生徒もいますが、ほとんどの生徒は「ありがとうございます。」とか「さようなら。」と言って受け取ってくれます。「ワー！来年のカレンダーだ。うれし〜い。」と言って帰って行く子もいました。

携帯やスマホでカレンダーはいつでも見える時代になっても、やはり昔ながらの「カード」も捨てたものではないと思います。少しでも、カードが相談への後押しになればと考えて配っています。